

3 小学校各教科の調査結果の概要及び今後の指導について

(1) 国 語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—	
話・聞	：話す能力・聞く能力
書	：書く能力
読	：読む能力
言語	：言語についての知識・理解・技能

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)		
話すこと・聞くこと イ	1	一	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き取ることができる。	話・聞	75.0	64.3	
		二		話・聞	70.0	40.8	
		三		話・聞	75.0	76.6	
言語事項 ア	1	(1)	学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。	言語	70.0	63.7	
		(2)		言語	60.0	32.8	
		(3)		言語	70.0	72.9	
		(4)		言語	70.0	84.2	
	2	二	(1)	前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くことができる。	言語	85.0	93.1
			(2)		言語	80.0	88.7
			(3)		言語	70.0	51.4
			(4)		言語	75.0	86.0
	言語事項 イ (ウ)	3	(1)	日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くことができる。	言語	70.0	74.1
			(2)		言語	70.0	66.9
	言語事項 オ (ウ)	4	(1)	文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うことができる。	言語	80.0	94.3
			(2)		言語	80.0	93.9
言語事項 エ (イ)	5	(1)	表現したり、理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる方法を理解している。	言語	80.0	67.7	
		(2)		言語	70.0	75.5	
言語事項 オ (ア)	6	(1)	修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な内容を理解している。	言語	60.0	71.4	
		(2)		言語	50.0	46.0	
読むこと ウ	3	一	場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに想像しながら読むことができる。	読	65.0	37.8	
		二		読	75.0	54.7	
		三		読	75.0	88.7	
		四		読	70.0	71.3	
読むこと オ	4	一	目的に応じて、必要なところは細かい点に注意して文章を読むことができる。	読	60.0	31.8	
		二		読	50.0	31.2	
読むこと イ	4	三	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むことができる。	読	60.0	38.6	
		四		読	70.0	71.3	
書くこと アイウエ	5	相手や目的に応じて、適切に書くことができる。書く必要のある事柄を収集したり選択できる。書こうとするものの中心を明確にして書くことができる。	書	60.0	45.6		

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内					
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡			
1	一	話の内容を聞く。(話題提示)	75.0	63.3	63.2	64.6	64.1	63.7	69.8	61.3	
	二	話の内容を聞く。(中心となる話題)	70.0	43.6	44.1	35.4	39.4	42.4	32.9	39.6	
	三	話の内容を聞く。(話し手の考え)	75.0	72.6	72.2	77.5	77.0	76.0	83.1	74.8	
2	一	(1) 「用 (いる)」の読み方	70.0	61.4	62.0	52.2	39.9	43.1	38.0	37.4	
		(2) 「見聞」の読み方	60.0	31.7	31.9	28.7	30.9	35.8	32.9	24.6	
		(3) 「昼食」の読み方	70.0	74.4	74.2	78.7	65.0	64.9	71.9	61.3	
		(4) 「正直」の読み方	70.0	84.0	84.3	79.2	89.0	89.3	90.5	88.0	
	二	(1) 「きょうりょく」の書き方	85.0	92.9	92.8	94.9	91.6	89.6	93.6	92.6	
		(2) 「りょう」の書き方	80.0	88.4	88.1	91.6	87.8	88.8	87.1	87.0	
		(3) 「せつやく」の書き方	70.0	52.3	52.8	44.9	46.6	49.1	43.1	45.9	
		(4) 「よろこ (ぶ)」の書き方	75.0	85.1	85.0	86.0	85.0	83.0	83.4	88.1	
	三	(1) ローマ字「tosyokan」の読み方	70.0	71.3	71.9	61.8	74.7	73.9	83.1	70.9	
		(2) 「まつり」のローマ字での読み方	70.0	64.2	65.1	51.1	69.2	70.9	78.3	62.4	
	四	(1) 適切な接続詞の使い方	80.0	92.3	92.3	92.7	95.7	96.6	95.3	95.0	
		(2) 適切な接続詞の使い方	80.0	92.0	91.9	92.7	95.1	95.7	94.9	94.6	
	五	(1) 漢字辞典の使い方	80.0	64.2	64.5	59.6	70.7	75.8	66.8	67.2	
		(2) 漢字辞典の使い方	70.0	70.8	71.1	66.9	77.9	79.0	76.9	77.2	
	六	(1) 主述の関係	60.0	67.4	67.9	60.1	75.0	76.3	75.9	73.0	
		(2) 修飾と被修飾の関係	50.0	38.2	37.8	43.8	52.3	54.7	54.9	48.1	
	3	一	叙述を基に想像して読む(登場人物の気持ち)	65.0	37.5	37.7	35.4	37.7	41.6	36.6	34.1
		二	叙述を基に想像して読む(登場人物の学年)	75.0	57.1	57.5	50.6	50.6	50.8	45.1	53.5
三		叙述を基に想像して読む(返事をしない理由)	75.0	88.2	88.6	81.5	89.9	89.8	90.2	90.0	
四		叙述を基に想像して読む(情景の想像)	70.0	71.2	71.7	64.0	71.5	77.0	70.5	66.1	
4	一	細部の読み(「同様な例」の内容)	60.0	32.6	32.3	37.6	30.7	28.6	29.5	33.7	
	二	細部の読み(「二つの種類」を要約)	50.0	33.0	32.7	36.5	33.7	34.4	38.3	30.4	
	三	段落相互の関係	60.0	36.9	37.1	33.7	36.0	37.8	35.9	34.1	
	四	要旨の選択	70.0	70.3	70.4	68.5	72.9	73.6	70.8	73.1	
5		目的に応じた表現(本の紹介)	60.0	39.2	38.7	45.5	52.3	52.8	53.6	50.9	
教 科 全 体			69.5	63.4	63.6	61.3	64.4	65.5	65.1	62.7	

(単位：%)

中 南 管 内					上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内			県全体
弘前市	黒石市	平川市	中・南郡		十和田市	三沢市	上北郡		むつ市	下北郡		八戸市	三戸郡		
60.6	62.4	57.7	60.2	54.2	66.4	66.3	62.6	68.2	58.5	61.3	48.8	68.7	69.4	66.1	64.3
39.5	37.6	43.9	41.1	42.5	38.9	40.0	36.9	38.9	35.6	36.8	31.4	42.5	42.9	41.0	40.8
77.4	78.3	74.5	76.8	76.7	78.4	77.8	72.7	81.4	75.8	78.3	67.4	78.9	80.3	74.0	76.6
77.6	77.4	75.2	78.0	80.7	57.5	59.5	57.4	56.1	79.8	82.5	70.3	66.2	67.4	62.0	63.7
30.8	32.6	31.9	26.1	25.1	32.5	37.2	27.3	31.5	28.6	29.6	25.0	37.7	37.9	37.2	32.8
77.3	78.3	75.8	70.7	81.8	68.9	65.4	69.9	70.9	77.0	79.6	68.0	73.5	73.5	73.7	72.9
86.7	87.6	86.2	82.2	87.6	79.8	80.6	78.1	80.0	83.6	86.8	72.7	83.3	84.2	79.8	84.2
93.9	93.5	93.9	94.6	94.9	92.0	94.2	88.4	92.1	90.9	91.3	89.5	94.7	94.5	95.5	93.1
88.0	88.5	87.1	86.9	87.3	87.8	88.9	85.6	88.0	88.6	88.5	89.0	90.7	90.6	91.3	88.7
53.4	52.3	57.1	48.4	61.1	46.3	47.0	38.5	49.5	54.9	56.8	48.3	53.8	55.5	47.5	51.4
84.1	82.8	86.5	85.7	86.5	85.9	90.5	80.0	85.4	85.4	86.1	83.1	89.3	89.4	88.7	86.0
76.3	77.3	84.4	77.4	60.4	75.0	75.9	73.6	74.9	74.5	76.7	66.9	73.8	74.4	71.7	74.1
71.7	73.8	75.5	74.5	52.4	69.0	73.4	61.0	69.6	65.7	68.3	57.0	63.4	64.1	61.1	66.9
95.3	96.4	94.5	96.5	88.4	94.3	96.0	92.7	93.9	92.3	92.3	92.4	95.2	95.8	92.9	94.3
94.5	95.6	94.8	95.9	86.9	95.2	97.2	92.0	95.3	91.3	91.1	91.9	94.4	94.8	92.7	93.9
70.0	69.4	73.9	72.0	66.2	65.8	68.7	60.8	66.0	62.3	63.2	59.3	70.4	71.9	64.9	67.7
79.9	79.3	83.1	82.8	75.6	74.1	77.1	71.3	73.3	74.9	77.2	66.9	76.3	77.7	71.4	75.5
72.9	74.3	76.1	74.8	59.3	72.4	77.8	64.5	72.1	66.1	67.1	62.8	73.0	73.8	69.8	71.4
48.7	50.7	53.1	50.6	30.2	50.6	54.4	46.7	49.7	34.8	33.7	38.4	47.9	50.0	40.5	46.0
36.3	38.0	38.7	31.2	30.2	37.9	41.7	34.6	36.7	35.3	38.0	26.2	40.0	39.9	40.4	37.8
55.8	58.0	52.8	53.5	50.2	52.7	53.9	51.0	52.7	52.8	55.3	44.2	55.2	56.3	51.4	54.7
88.8	89.4	89.9	87.6	86.2	88.9	90.4	87.0	88.6	87.6	88.7	83.7	88.7	89.4	86.1	88.7
70.2	71.1	67.5	69.7	69.1	71.1	72.4	70.8	70.4	65.2	67.8	56.4	73.7	75.1	68.8	71.3
34.2	33.7	42.0	35.4	26.2	31.6	33.2	19.8	36.1	26.3	27.1	23.8	31.3	32.1	28.1	31.8
29.9	30.9	33.4	24.5	26.9	28.8	28.1	21.6	32.7	24.9	26.0	20.9	32.6	33.7	28.4	31.2
43.7	44.7	44.2	47.8	33.5	39.4	40.8	37.4	39.4	33.9	34.8	30.8	37.8	38.1	36.8	38.6
72.3	72.9	74.2	71.0	68.4	70.7	74.3	69.9	68.5	67.5	69.5	60.5	72.0	73.1	67.9	71.3
49.3	50.5	55.8	48.7	35.6	50.3	53.5	38.3	53.8	36.4	36.3	36.6	44.6	45.8	40.4	45.6
66.4	67.1	68.0	65.9	61.6	64.4	66.3	60.4	64.8	62.5	64.0	57.6	66.1	66.8	63.2	64.8

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
話すこと・ 聞くこと	3	1三	1二	60.6	73.3
書くこと	1		5	45.6	60.0
読むこと	8	3三、3四、 4四	3一、4一、 4二、4三	53.2	65.6
言語事項	16	2一(4)、2二(1)、 2二(2)、2二(4)、 2四(1)、2四(2)	2一(1)、2一(2)、 2二(3)、2六(2)	72.7	71.3

内容・領域別にみると、県の平均通過率と比較して通過率が高かったのは、「言語事項」である。同程度だったのは、「話すこと・聞くこと」であり、通過率が低かったのは、「書くこと」、「読むこと」である。

設定通過率と比較すると、同程度だったのは、「言語事項」であり、下回ったのは、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」である。

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
話す能力・ 聞く能力	3	1三	1二	60.6	73.3
書く能力	1		5	45.6	60.0
読む能力	8	3三、3四、 4四	3一、4一、 4二、4三	53.2	65.6
言語について の知識・ 理解・技能	16	2一(4)、2二(1)、 2二(2)、2二(4)、 2四(1)、2四(2)	2一(1)、2一(2)、 2二(3)、2六(2)	72.7	71.3

観点別にみると、県の平均通過率と比較して通過率が高かったのは、「言語についての知識・理解・技能」である。同程度だったのは、「話す能力・聞く能力」であり、通過率が低かったのは、「書く能力」、「読む能力」である。

設定通過率と比較すると、同程度だったのは、「言語についての知識・理解・技能」であり、下回ったのは、「話す能力・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」である。

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率(%)	主な誤答(無答を含む)例 (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)	
1	二	40.8	70.0	糸をはじく(36.0)、リコーダーやラッパ等の楽器(10.0)、ひく、指でならず、ひっぱる等(5.0)、糸をはる(5.0)、糸をこする(4.0)、はじいたり、たたいたり等(2.0)
2	六(2)	46.0	50.0	オ(23.0)、ウ(15.5)、エ(5.0)
3	一	37.8	65.0	足がおそいのおよには、ゆううつな日だ(11.0)、今日は春の運動会(5.5)、「ね、ね、今日はお母ちゃん、ぼくが走るまでに来てくれるよね。」(3.5)、文になっていない回答(17.5)、2文以上での回答(9.5)
4	一	31.8	60.0	ライチョウやエチゴウサギのはねや毛が白くなる(25.5)、自分をねらうてきの目からのがれる(10)、鳥やけもの(7.5)、「同様な」の意味を記述(6.5)、無答(13.0)
4	二	31.2	50.0	「食べるとひどい目にあう」だけ(15.5)、毒を「もっている」と「もっていない」(14.0)、「毒・味・におい」と「色・もよう」(13.0)、広告する(11.5)、無答(8.0)

- 1 二について

誤答の原因として、話の組立て方を意識していないため、三つの仲間をしっかりと聞き取っていないことや「糸をはじくこととこすること」の二つの動作のうち一つしか聞き取っていないことが考えられる。特に「糸をはじくこと」だけしか答えていない誤答が最も多かった。

- 2 六(2)について

誤答の原因として、「エ」の「しつとりと」の被修飾語を答える問題に「エ」という回答が5.0%あったことから、修飾と被修飾との関係について理解できていないことが考えられる。

- 3 一について

誤答の原因として、登場人物の行動から気持ちを想像する読み方が身に付いていないことが考えられる。そのため、「ゆううつ」な気持ちにかかわる会話や登場人物の思い出を答えたものと考えられる。このほか、文という言葉のまとまりを理解していないために、単語や文節で答えたり、2文以上で答えたりする誤答が多数あった。

- 4 一について

誤答の原因として、「ライチョウや、エチゴウサギは冬、はねや毛がまっ白です」、「自分をねらうてきの目からのがれる」、「鳥やけもの」等、前の段落の「カレイが体の色を変える」ということ以外のことを多く指摘しているので、「同様な」ではなく「同様な例」について記述したことが考えられる。

- 4 二について

誤答の原因として、「食べるとひどい目にあう」、「相手をおどす」のどちらか1種類だけの記述が多いので、2種類のことを60文字以内にまとめて書く力が身に付いていないことが考えられる。また、27.0%が2種類を「毒をもっている」と「もっていない」、「毒・味・におい」と「色・もよう」と指摘していることから、要点ではなく、例示に着目したことが考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別に見た課題としては、昨年度と同様、他と比較して通過率の低かった「書くこと」と「読むこと」の充実が挙げられる。

今後の学習指導においては、特に以下の指導が重要である。

- 「書くこと」
- 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。
 - 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。
 - 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。
- 「読むこと」
- 目的に応じて、中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係や事実と意見との関係を考えながら文章を読むこと。
 - 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基にして想像しながら読むこと。
 - 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを要約したりすること。

評価の観点別にみた課題としては、昨年度と同様、「書く能力」と「読む能力」の育成が挙げられる。

個々の問題の誤答傾向からみた課題として、「話すこと・聞くこと」については、聞くことの目的や意図を明確にし、話し手の意図をとらえながら聞く能力の育成が挙げられる。

今後の学習指導においては、言語活動例(2)アの学習を通して、「話し手が伝えたい事は何か」という観点で、事柄の順序など、話の組立て方（はじめ—中—おわり等）を意識しながら、大事なことを聞き取るように指導することが大切である。また、接続語や文末表現を意識しながら文のまとまりに着目したり、話し手が工夫している言葉遣いに着目したりして、具体的な観点を持ちながら聞くことができるようにしていくことが望ましい。

あわせて、正確に聞き取るために、数字や場所、名前など、大事なことを、短い言葉（単語・短文・箇条書き・体言止めなど）や記号・罫線・矢印などを使って書く指導をすることも大切である。

「言語事項」については、「漢字の読み書き」と「修飾と被修飾の関係」が低かったことが挙げられる。

「漢字の読み」については「用（いる）」「見聞」の読みが低かった。「見聞」は、平成17年度の調査においてもほぼ同じ通過率になっている。また、「書き」については「せつやく」が低かった。今後の学習指導においては、国語科はもとより他の教科等の学習とも連携して、正しい語句の習得と活用を図っていくことが大切である。

「修飾と被修飾の関係」については、昨年度に引き続き通過率が低かった。指導にあたっては、文節ごとのカードや文図などを使った視覚的な指導が有効である（平成21年度学習状況調査実施報告書参照）。また、習熟の機会が不足していることが考えられるので、継続的に繰り返し指導する必要がある。言語事項の単元のほか、説明的な文章や文学的な文章で音読するときにも修飾と被修飾の関係を学習させることができる。

〔例〕 調査問題 「校庭の かたすみで あじさいが しっかりと 雨に ぬれました。」

- ① 「何が、どうしたのですか」と問い、「あじさいが ぬれました。」と主語・述語を音読させる。
- ② 次に、「どのようにぬれたのですか」と問い、「あじさいが しっかりと ぬれました。」と音読させる。

③そして、「何にぬれたのですか」と問い、「あじさいが しつとりと 雨に ぬれました。」と音読させる。

指導例

「登場人物の行動から気持ちを想像する」読み方の指導 (3一)

朝の日ざしがベランダからさしこむ。のぶよは、^{気が進まないように ゆっくりと 暗く}のそのそと二人分のふとんをたたむ。今日は、春の運動会。足のおそいのぶよには、ゆううつな日だ。
 「ね、ね、今日はお母ちゃん、ぼくが走るまでに来てくれるよね。」
 歯みがきのとちゅうで、けんじが顔をのぞかせる。

- ① 一文ずつリレーで音読させ、文という単位を意識させる。
- ② のぶよの「ゆううつ」な気持ちが表れている文に線を引かせる。
- ③ 線を引いた文の様子が分かるように、音読の工夫を書き込んだり、音読の練習をさせたりすることを通して情景を想像させる。
- ④ 音読の工夫を発表させ、意見を交流させ、のぶよの「ゆううつ」な気持ちが「のそのそ」という言葉に表れていることに気付かせる。

「読むこと」については、文学的な文章では、登場人物の行動から気持ちを想像して読んだり、叙述を基に登場人物の学年を読んだりする問題の通過率が低かった。登場人物の行動や会話から性格や気持ちの変化を読み取るように指導することが大切である。その際に、叙述に即して読ませることが必要である(指導例参照)。また、自分を取り巻く現実や経験と照らし合わせて物語の世界を豊かに、かつ具体的に感じ取ったり、そこから感じ取った感想や感動を大切にしたりすることも必要である。

説明的文章においては、「同様な例」の「同様な」がどんなことを指しているのかという、細部を読む設問の通過率が、31.8%と低くなっている。この問題は、語句・段落相互の関係に気を付けて読む能力が必要であり、その能力を育成する必要がある。

今後の指導においては、文の中での語句が互いにどのような関係にあり、それぞれがどの形式段落のどこの部分に結び付いているかを明確にとらえさせることが大切である。「同様な例」という表記があった場合、「ライチョウやエチゴウサギのはねや毛が白くなる」(25.5%)と短絡的にその後が続く例示に目を向けたり、「鳥やけもの」(7.5%)と直前の言葉を安易に選んだりしてしまうことがある。「同様な」の意味をしっかりと捉えた上で、例示に目を向けさせることが大切である。そして、その時には、その例示の段落の前(直前とは限らない)の段落との関係に気付かせることが必要となる。

指導例

「語句・段落相互の関係」のとらえさせ方

- ③ 周りの色に合わせて、体の色を変える動物もいます。カレイは、海の底に下りる前に、海底の色やもようを目でとらえ、着地するとすぐに、それとそっくりに体の色を変えます。
- ④ 鳥やけものにも、同様な例があります。雪の多い地方にすむ、ライチョウや、エチゴウサギは冬、辺りが雪にうずまわっているところは、はねや毛がまっ白です。ところが、春になって雪がとけると、ライチョウは、地面の色にいた茶色でまだらのはねになり、エチゴウサギは、茶色の毛に変わります。こうして、自分をねらうてきの目をのがれるのです。

二つの種類について、60字以内でまとめるという「要約」に関する問題の通過率が、31.2%

と低くなっている。この問題は、中心となる語や文に注目して要点をまとめる能力が必要であり、その能力を育成する必要がある。昨年度の50文字から、10文字増やしての出題であったが、一つの種類の記述で終わってしまう回答が多かった。また、二つの種類の部分的な特徴をとらえての記述に終始し、要点の記述にまで至らなかった回答も多かった。目的に応じて、必要なところは細かい点に注意して文章を読ませる指導を継続して行いたい。

「問いかげの文」(疑問を表す一文)の問題については、文頭の接続語や指示語、文末表現などを的確にとらえたり、各形式段落ごとに内容の要点をつかませたりする指導を継続して行いたい。

「書くこと」については、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成する能力の充実が挙げられる。

今後の指導においては、資料を効果的に使った説明的な文章を書くなどの言語活動を工夫し、自分の考えが明確になるように文章を構成するための接続関係や配列関係などの段落相互の関係に注意させたり、事実と感想、意見などを区別させたりするとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりする記述の指導をすることも大切である。

設定通過率との比較からみた課題としては、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の充実が挙げられる。

「話すこと・聞くこと」では、話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き取る問題を出題した。その中で、三つの仲間のうちの一つを問う問題は40.8%と、設定通過率を大きく下回った。日頃から話の組立て方を意識しながら話の要点を聞くとともに、必要なことをしっかりとメモさせることが大切である。

文学的な文章では、叙述を基に登場人物の気持ちや設定及び情景を読み取る問題を出題した。登場人物の行動から気持ちを想像する問題は37.8%、登場人物の設定(今回は学年)を読み取る問題は54.7%と、設定通過率を大きく下回った。第3学年及び第4学年の言語活動例(2)アの指導を大切にするとともに、日ごろから本や文章を読んだときの感想が、どの叙述に基づいているのかを説明させることも必要である。

説明的な文章では、細部を読み取る問題と要約する問題、そして、段落相互の関係を問う問題を出題した。細部を読み取る問題は31.8%、要約する問題は31.2%、段落相互の関係を問う問題は38.6%と、設定通過率を大きく下回った。「要約」や「段落相互の関係」に関しては、「書くこと」と併せて、段落を意識した短い文章を日常的に書かせることも必要である。その際、「形式段落の要点を押さえて」、「事実と意見に分けて2段落で」、「何の例示か」などといった条件を提示して書かせる工夫も必要である。

キ まとめ

国語全体としては、昨年度の問題と比較すると、より思考力、判断力、表現力などを必要とする問題を増やした影響があり、通過率が昨年度を下回った。内容領域別で見ると、「話すこと・聞くこと」が19.4%、「書くこと」が7.1%、「読むこと」が11.4%、「言語事項」が3.7%それぞれ低下した。

設定通過率との比較で見ると、「言語事項」が1.4%上回っただけで、他は12.4%から14.4%下回った。

国語の能力を調和的に育て実生活に生きて働くようにするには、それぞれの領域の特性を生かしながら児童主体の言語活動を活発にしなければならない。学習指導要領では、各領域において基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることができるよう、言語活動を具体的に例示している。

学校や児童の実態に応じて、様々な言語活動を工夫し、その充実を図っていくことが重要である。